

MOSAIC

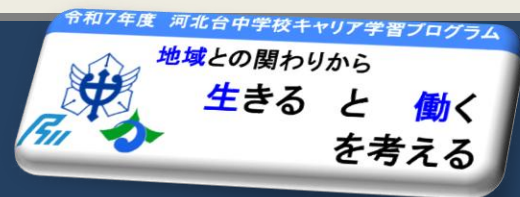


河北台中学校第2学年通信

昨年、本校から書籍を寄贈した団体から「奥能登20か所に『きんじょの本棚』としていただいた本を設置完了した」と連絡がありました。あなたの本が奥能登のどこかで誰かの役に立っているんですね☺

7月1日2日は

学生ではなく地域の担い手に



たばた農園



- 食品ロスをしないために、傷の入ったトマトや虫に食われた葉野菜などを乾燥させ、すりつぶし、パウダーにして販売しているところに驚いた。（2組 東 心）
- ミニトマトの収穫や袋詰め、きゅうりの定植や収穫など農業の仕事の一部を体験したことで、仕事のイメージができました。この職場を選んでよかったです。（2組 三崎）



ふぁーむまるぱぱ



- ここでの働きを通して、働くという課題が生まれると思うけど、その課題を新しい視点から見て考察することで解決できるのだと思った。今後の「生き方や働き方」の参考になった。（3組 赤井）
- この直売所のうりは、採れたて野菜が安く、インターネットでの販売があり、なにより職場の皆様が気さくで優しい人柄だということです。（3組 松田）

- 職場の人の優しさ、暑い中での作業の大変さに触れ、働くことを深く考えました。社会には今本ぶどう園さんのような会社だけでなく厳しい会社もあると思うけど、そこになったとしても仕事のやりがいや喜びを見失わないようにしたいと考えました。（1組 川原タ）
- 考えることが多い体験になった。今後は身の回りのものにもっと目を向け、大切に作る気持ちを持って生活したいと思った。（3組 坂口）



今本ぶどう園

- 希望した職場とは違っていたけど、やってみると面白かった。少しでも異物が入っていると味噌がすべて廃棄になってしまうので、衛生管理が大変だと思った。（1組 森）
- とり白菜味噌はいつも何気なく食べているけど、僕らが見えないところでものすごい数の工程があって、店に出ていることを知って驚いた。点検は気が張った。（1組 河元）

(株) まつや



- 食べる側ではなく、「作る側」の視点で給食センターの方と関わることで、生徒のためを考えて作ってくれていることや全ての役割が大切なものだと実感することができました。（2組 山本）
- 最初、他の職場を希望していたけど給食センターになってよかったと思った。衛生管理の徹底、チームの中で役割を果たすこと、大切なことを学ぶことができた。（2組 鮎川）



どんたく かほく店



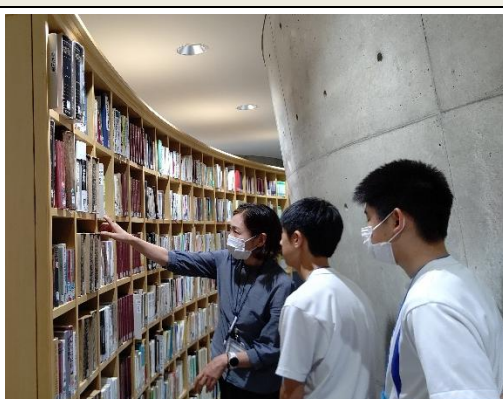
給食センター



市総合体育館



- お客さんがいないときに社員の方が話しかけてくれて少し緊張がほぐれた。受付業務をしながら感じたことは利用者が施設で安全に過ごすために細かいところまで目を行き届けることが大事だと思った。（3組 金木）
- 他の利用者さんと一緒にトレーニングを体験した。実際にやってみると、見ている以上にきつい内容で、体のあちこちがきつかった。（1組 藤田）



西田幾多郎 記念哲学館



- 「コミュニケーションボール」を作りました。自分の作ったものが他の誰かの役に立つと思うと嬉しくて、有用感を感じました。（1組 山岸）
- 哲学館といっても、資料館のような業務を体験しました。受付業務で知らない人と話すことはとても緊張しましたが、物怖じせず話す感覚をとらえることができ、今後人と関わる仕事の参考になりました。（2組 東琉）



あかしあ荘
デイサービス



- 体験するまでは、お年寄りの相手には抵抗があった。でも実際体験してみて、スタッフも利用者の方々も優しい人ばかりで、こんな仕事もいいかもと思うことができたから。
- 体験中に体調が悪くなり、やりたかった活動ができなかった。友達に聞くと、有意義な内容だったようで残念だった。（1組 表）



あかしあ荘
ホーム



- 「働く」とき、相手の気持ちを考え、大切にすることが大切だとわかった。相手がどう接してほしいのかを考えてみることは自分と相手の立場や関係を大事にすることにもつながると思う。（3組 金子）
- 車椅子を運んだり、ベッドメイキングをしたりした。介護職は大変だと知っていたけど、想像以上に職員数が少なく大変そうだった。それでも公平に対応している姿に感動した。（3組 南）

- 優しく、話が上手な入所者さんとの関わりを通して、自分にあった生き方や働き方、自分がやりたいことが見つけれられた気がしました。（2組 中村祐）
- 入所者さんも職員の人みんな明るく、笑いの絶えない楽しい職場でした。ここでの体験を通して、自分の中で人との関わり方や接し方に変化ができました。（3組 南川）



海青クラブ



- 職員と利用者の仲が良く、終始和やかな雰囲気でした。この体験を通して、自分の生き方や働き方をこれまでよりも具体的に考えるようになった。介護職になるかは分からないけど、職業ではなくても認知症を持っている人や足が悪い人などがいたら、自分から進んで手伝いしようと思えた。（2組 立畠）



かほくの郷



七塚子育て
支援センター



- 一見、掃除など直接保育と関わりのない作業もしました。そういった作業を頑張っていると職員の方から褒められて、これも大切な仕事だと気づけたし、次へのモチベーションにつながりました。（3組 広田）
- 職員の方の話や施設の様子から、子育てが少しでも楽になるようにしたいという気持ちが伝わってきました。親をサポートするという視点が持ててよかった。（2組 吉田菜）



にじの丘こども園



- できたことは褒め、間違っことをしたら叱り、園児一人ひとりのことをちゃんと見ている先生方がかっこ良かったです。これまでよりも、将来のことが少しははっきりしてきました。（2組 喜多）
- 子どもたちと遊ぶことがこんなに楽しかったんだと改めて感じた。月1くらいで会いにいてもいいくらいだなと思った。（1組 紺谷）

- 保育はしてあげるだけではなく、「自分でやらせる場面」も大切だと感じました。最初は保育士が職業の選択肢になかったけれど、魅力を感じるようになりました。（1組 澤田）
- 子どもたちとレゴブロック遊びやボール遊びをしました。コミュニケーションって楽しいと思ったし、一人ひとりに合わせた関わり方について学びました。（3組 紺谷）



しらゆりこども園



- 一人ひとりに寄り添うことの大切さと喜びを感じました。最初は子どもと関わって嬉しいだけでしたが、後半は子どもを預かることの責任の大きさも感じ、自分の進路をこれまでよりも深く考えるようになりました。（1組 濱田）
- 保育参観で親の立場から保育を捉えました。保育士の視点、親の視点、子どもの視点、様々な視点から保育と関わり、体験前よりも視野が広がりました。（2組 折戸）



ひまわりこども園



初めはただ遊ぶだけの仕事だと思っていたけど 実は子どもたち一人ひとりの気持ちを大切に仕事だと気づきました。
将来の仕事選びにおいても人に寄り添う仕事をしたいと強く感じました。
能口 菜花（はまなすこども園での体験から）

すぐそこにある 日常は視点を変えると特別なのだと知る



- 着替えの場面で大切なことを学びました。着替えさせてあげるのではなく、自分でできるようにすることが大切ということです。他のことにも関係することだなと思いました。（1組 西村）
- 保護者の気持ちも考えながら、子どもが納得できるように対応することの大切さに気付きました。けんかになった時は、それぞれの話をしっかり聞き、一緒に解決方法を考えることが必要だと気づきました。（1組 小林）

はまなすこども園



スポーツコミッション
かほく

- 営業に行っているいろいろな人と会って、自分の言葉で会話したことがいい経験になった。自分の考えやアイディアを出し、企画制作などをさせてもらった。（2組 能任大）
- 自分で企画を考える仕事がとても楽しく、これからも企画を考えていきたいと思った。この経験から、自分が将来したいことが代替決まってきた。（2組 鈴木）



- 施設内が常に清潔に保たれていて、子供たちが安心、安全に楽しめるような配慮が行き届いていた。（1組 塩本）
- 今まで、仕事は上下関係などのマイナスのイメージがあった。でも、こちらでは敬語や挨拶という礼儀はありながらも、積極的に関わることでチームワークを高め、楽しそうに仕事をしていた。仕事に対する考え方が変わった。（3組 塚本）

あそびの森
かほく



かほく市立中央図書館

- 司書の方が優しく接してくれて暖かい雰囲気を感じました。安心して仕事ができただけで、平日の来館者の少なさなど図書館業務のいくつかの課題に気づきました。（3組 林）
- 配架などの業務をさせてもらいました。図書館の業務は利用者側からすると簡単そうに見えますが、働く側の視点に立つと、たくさんのことを考えさせられました。（1組 三山）



- 働き方改革が進んでいて、職場もスタッフも暖かく洗練された雰囲気を感じた。職場とプライベートスペースが分かれていて、「仕事」という泥臭いイメージがかなり変わった。（1組 和田）
- 将来の仕事の選択肢として関わらせてもらえて、考え方の幅が広がった。イメージしていた仕事とは違ったが、仕事には様々な段階や工程があることが分かり、アパレルという仕事を深く理解できた。（2組 川田）

KAJI FACTORY



二口製紐

- 今まで将来の選択肢に「製造業」がなかったけれど、二口さんとの関わりを通して、「誰か」をイメージして「何か」を作るといのはとてもやりがいのあることだと思えた。（3組 松谷）
- 製紐という仕事を知らなかったが、たくさんのユニークな製品を地域の学生とコラボして制作していることを知りました。この企業を身近に感じたし、仕事は楽しいものなんだと思えました。（1組 酒井）

- 部品付けの手伝い、回路図の確認、更に部品付けの部品の数・種類の確認など、体験といえど実際の仕事と同じことをやらせてもらえました。実際の仕事を体験したことで、今の自分の甘さと、今後の生き方や学びを具体的にイメージできました。（2組 大野）



旭電機設備工業

- 休憩時間に年の近い方と話したことが自分のキャリアの参考になった。今はまだ分からないことが多いけど、働いてみると見えなかった世界を間近に感じることができると教えてもらい感銘を受けた。（1組 遠田）



- 若手の方から話してもらったことで、中学生だから気になること、社会人当初の気持ちなど、その人からでないと聞けないことが聞けて、仕事を身近に感じた。（1組 堂）

表組



- あまり知らない職業でしたが、いざやってみると、工具を触って作業をすることがとても面白く、ここに来てよかったと思いました。職員の方の仕事をしている理由や学生の頃の話聞いたことも大いに参考になりました。（2組 西田）
- いくつか興味がある仕事の中から、こちらの職場になりました。忙しい中なのに、実際の作業を体験させてただけだったので、大変有意義な学びになりました。（2組 桶作）

河北モータース



西野製作所

- 機械のいろいろなことが知れたし、職場の方の人間性からたくさんの気づきや学びがあった。今後の探求学習もこちらの職場で深めていきたいと思えた。（2組 能口幌）
- 設計や作業の仕事が楽しかった。一つの機械を作るのに、たくさんの部品、工程、作業があることが分かり、携わる人同士でコミュニケーションが大切だと感じた。それを全ての職員が楽しそうに行っていることが素敵だと思った。（1組 折戸）

- 今の勉強と将来の職業のつながりが見えました。だから学校の勉強をする意味も分かりました。どんなことも勇気や自身をもって大胆にやることの大切さも教えてもらい、とても参考になりました。（3組 黒岩）
- 数学を活かせる仕事をしたいと思いこの仕事を選びました。イメージどおりの内容だったし、忙しい中なのにいろいろな場所へ連れて行ってもらい貴重な体験ができました。（3組 米田）



ジョイハウス
オカダ

- 普段の仕事を一生懸命に頑張ると言っていました。それは今の僕達にも言えることで習い事や1年後に控えている受験の勉強で一生懸命に最善を尽くすことで、後悔がなくなると思いました。（3組 中川）
- 仕事を金のためではなく、人々を幸せにするためにする、その大切さがわかりました。緊急時には自分と周りの守り方、集団行動の大切さも隊員の立ち振る舞いから気づかされました。（3組 飛地）



自衛隊石川地方
協力本部



- お客様への丁寧な対応の大切さを学びました。笑顔や言葉遣いひとつでお客様の気分が変わることを知り、自分の行動が周りに与える影響の大きさに気づきました。（3組 吉田千）
- 以前は人との接し方について不安に感じるところがありました。しかし、この職場で店員さんがお客さんと笑顔で接する姿を見ながら、その楽しさや接し方が分かるようになりました。（3組 川場）

hasu TEA



Bakery
Cobitto

- お客様にパンをお渡しする際にしっかりと目を見て伝えることで、気持ちが伝わると体験を通して学びました。自分で選んだ職場で優しく教えてもらったことでいい経験ができました。（3組 森）
- どうすればお客さんが笑顔になるか考えたり、隠れていて、とても美味しい商品がたくさんあるのに、人気商品しか売れなかったり、そこをどうすればよいかといういろいろ考えながら仕事をしました。（1組 角見）

芝寿し 梶谷社長と学ぶ

「働く」から学ぶかほく市の未来をつくる ～社会課題に挑む商品づくりのチカラ～



7月17日（木）本校体育館にて
「商品」を売った先にある「ちょっといい時」を目指して仕事をしています。多くのお客様のアンケートから分かってきたことは商品を買ってくれる方は、その先にあるなにか「幸せ」をイメージして購入してくれているということ。「働く」ということは自分や自分以外の誰かの幸せをつくっていくことでもあるんです。



女性が芝寿しの弁当を買ってくれたことはうれしい でも

「わが子」が美味しいと言って食べている顔が見たくて買いました」…この言葉にハッとさせられた
梶谷 真康（株式会社 芝寿し 代表取締役社長）